



Myanmar ミャンマー

「日本とミャンマーの架け橋として」

「アウトリーチはミャンマーへ」と示されてから早 4 年、ついに扉が開かれて行ってきました！この度は、アジア各地で宣教されているダニエル・マカーティ師がコーディネーターとなってくださいました。ダニエル師が私たちを招かれた大きな目的の一つは、日本とミャンマーがつながるためでした。

また、伊藤仁宣教師が全面的に通訳奉仕をしてくださったことは主のすばらしい備えでした。日本語→英語→ミャンマー語でもできなくはないですが、間が開きすぎたり、御霊の流れが途切れたりしかねません。おかげでチーム全員が日本語で証しやメッセージ、祈りやミニストリーを自由に行うことができました。ミニストリーの通訳のみならず、移動手段の手配や私たちに合いそうな食事を注文してくださったり、ちょっとした文化・習慣の違いを教えてくださいました。ソジョン夫人とかわいい三人のお子さん達にもあらゆる面で助けられました。

さて、私たちはまず、ダニエル師が設立されたハッピーファミリー聖書学院を訪問しました。その名にふさわしく、学院長の家族が中心になって運営がなされていました。仏教国のミャンマーではクリスチャンは二級市民扱いをされます。クリスチャンであること自体がチャレンジであり、また証しなのです。ところで、ミャンマーのクリスチャンは熱いと噂には聞いていました。普段は控えめで穏やかな物腰ですが、礼拝になると、噂通り、みんな賛美大好き・踊り大好きなハッピークリスチャンで、チーム一同圧倒されそうになりつつも、すぐに心一つになって共に主を賛美しました！そして彼らは本当によく仕えてもてなす、愛と情熱に満ちた人々でした。

最初の 2 日間は聖書学校で鍛冶川師の教えや学生の証し、ダンス指導、保育所で児童伝道などをしました。彼らは日本のようにあらゆる教えが入ってくる環境にはないので、外部から宣教チームが来たりすると、この時とばかりに習得しようと、熱心に教えに耳を傾けていました。日曜日の礼拝後は、伊藤先生の日本語教室で奉仕をしました。そこには未信者の子ども達やお坊さんも来ていました。子ども達はきちんとしつけられており、教会内で弟子訓練がなされている様子が伺えました。また、二ヶ所の孤児院を訪問しました。一つは約 130 名の孤児を受け入れ、もう一つは教会と併設されたところで十数名の子ども達が歌と踊りを持って歓迎してくれました。どちらも経済的に厳しいにもかかわらず、子ども達を引き取り、来た当時はしつけがなかった子たちをきちんとしつけて教育し、信仰者へと育てていました。

今回は未信者への伝道チャンスは多くありませんでしたが、貧しさの中で懸命に生きる人々の姿にも触れ、日本とミャンマーをつなぐ大きな役割が果たせました。その実が今後さらに豊かに実ることを期待しつつ、主に感謝と賛美をささげます。現地で私たちを受け入れてくださった方々、そして、お祈りやささげ物をもってご支援くださった皆様に心より感謝申し上げます。

稲本妃美子記



賛美するハッピーファミリー聖書学院の学生達



伊藤宣教師で家族との楽しいお交わり



ミャンマーの姉妹達と共にゴスペルフラを踊る



ヘイホーの孤児院 ピンクの服の婦人がこの責任者



水上生活する親子